



会津果樹情報

第6号



令和4年9月5日

福島県会津農林事務所 農業振興普及部

J A会津よつば あいづ西部営農経済センター

1 気象概況

(1) 8月の気象推移会津若松市の令和4年8月の平均気温は25.6℃(平年比+0.5℃)、合計降水量は131.5mm(平年比96%)でした(図1)。

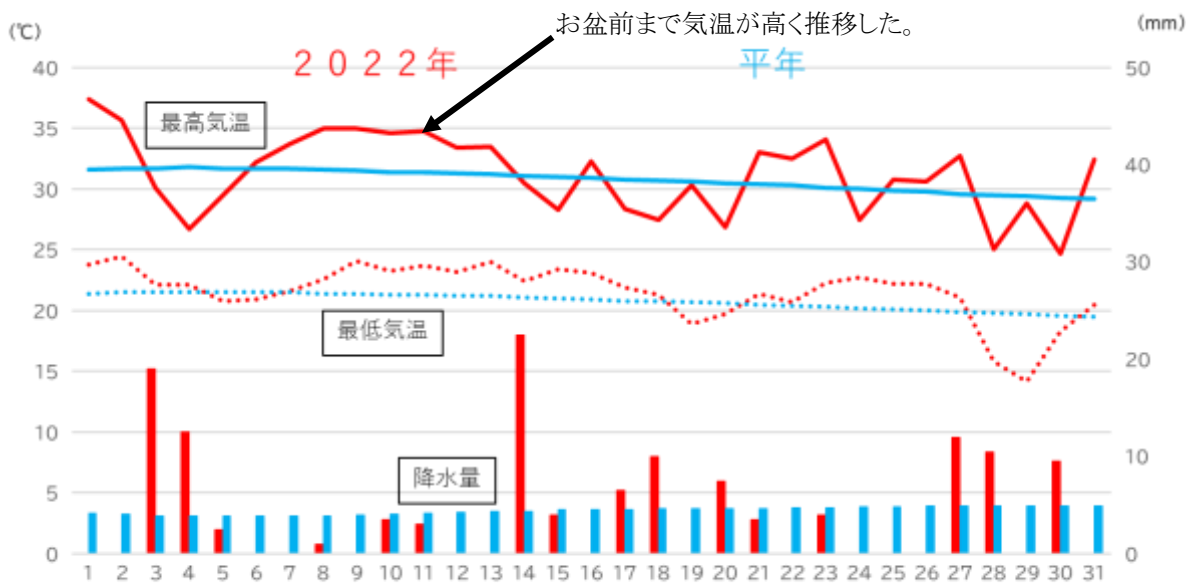


図1 令和4年8月1日～8月31日までの気象推移(アメダス会津若松)

(2) 東北地方の1ヶ月予報(仙台管区气象台9/1発表)によれば、9月は暖かい空気が流れ込みやすく、向こう1か月の気温は高くなる見込みです。降水量と日照時間は平年並みとなる見込みです。

2 リンゴとカキの生育概況

表1 各樹種の果実肥大状況(9月1日調査、暦日比較、平年は1986～2021年の平均)

樹種	リンゴ				カキ	
	ふじ		つがる		会津身不知	
品種	ふじ		つがる		会津身不知	
調査地点	会津若松市北会津町		会津若松市北会津町		会津若松市門田町	
項目	縦径	横径	縦径	横径	縦径	側径
果実径(mm)	69	75	72	81	51	73
平年比(%)	102	101	97	97	108	112

生育日数比でも「つがる」は平年より小さく推移しています。

生育日数比でも「みしらず柿」は平年より大きく推移しています。

3 今後の栽培管理

(1) 樹種共通

ア 野そ（ネズミ）駆除

- ・ 野そ被害が散見されます。**殺そ剤**を用いて地域ぐるみで駆除しましょう。
- ・ 幹周囲の敷きわらは回収しましょう（敷きわら下が生息場所となります）。

△ 取り扱い説明書をよく読み、適正な使用をお願いします △

イ 越冬害虫のバンド誘殺

- ・ カイガラムシやナミハダニ（図2）は、寒くなると樹の粗皮下などで越冬します。
- ・ **バンド誘殺**は無農薬で越冬害虫を駆除できる環境にやさしい防除方法です。

～バンド誘殺とは～

- ・ マツの「こも巻き」のような方法です。
- ・ 9月下旬頃に、枝の幹部に麻袋や飼料袋を巻き付けます。
- ・ 2月上旬頃に取り外して園外で処分します。



図2 ナミハダニ

(2) モモ

ア せん孔細菌病の秋季防除

- ・ 秋期防除（IC ボルドー 4 1 2 等の銅剤散布）を9月10日頃から10日間隔で計3回実施し、越冬菌密度の低下を図りましょう。
- ・ 台風や強い風雨前の予防散布を徹底させましょう。
※あらかじめ秋季せん定を実施し、薬液がかかりやすいようにしましょう。

イ 秋肥

- ・ 今年の春先に、多数の園地で新梢葉の生育不良が見られました。
- ・ 収穫後、9月のできるだけ早い時期に秋肥を施用し、樹勢の回復と貯蔵養分の蓄積に努めます。
- ・ 秋肥は尿素を中心に速効性肥料を用います。
※参考：「あかつき」の秋肥は中肥沃土地帯で7kg/10a。

(3) カキ

ア 新梢管理

- ・ 9月下旬頃までに、徒長枝等を中心に新梢管理を実施します
- ・ 来年の結果母枝として利用できそうな新梢は残しましょう。
- ・ 徒長枝を大量にせん除すると日焼け果が増える恐れがあります。新梢管理は加減して実施します。

イ 着色管理

- ・ 近年、温暖化による着色不良・収穫の遅れが問題となっています。
- ・ **収穫前30日**を目安に樹冠下に反射シートを設置し、着色向上を図りましょう。
※それ以上設置時期を早めると、果てい部の裂果が多くなります。

(4) リンゴ

ア 着色管理

- ・ 赤色系のリンゴは綺麗に着色しているほど、商品価値が高くなります。
- ・ 果面の30%程度が着色したら、果実付近の葉を2～3枚摘み取ります。
- ・ 地面に反射シートを敷くことで着色むらが無くなります。

イ 病害虫防除

- ・ 8月下旬から一部の園で褐斑病(図3)の発病葉が見られ始めました。
- ・ 特別散布を行う場合には、十分な量(500L/10a)を散布ムラの無いように実施しましょう。



図3 褐斑病

△ 散布間隔が空きすぎないようにする △

ウ 秋肥の施用

- ・ 春の初期生育には、前年の貯蔵養分が重要な役割を果たします。
- ・ 早生種「つがる」では、9月上旬～中旬にかけて施用します。
- ・ 速効性の化学肥料と緩効性の有機質肥料を組み合わせると良いでしょう。

△ 樹勢が強い場合は施用時期を10日ほど遅らせます △

エ 台風対策

9～10月は例年、台風が多く襲来します。天気予報をチェックし、立木のリンゴでは以下の事前対策をとりましょう。



① 収穫期を迎えた果実

台風前に収穫します。

②側枝

支柱等を外して、風になびくようにします。

③主枝

支柱で支え、枝受け部分を結束します。

(5) ブドウ

ア 収穫

- ・ 果実温度が低い朝の時間帯に収穫しましょう。
- ・ 晴れが2～3日続いた日に収穫するようにしましょう。降雨直後は糖度が1～2° Bx 下がることもあり、また土壌水分が高まって裂果することがあります。

△早生品種では9月頃に基肥を施用するので秋肥は施用しません △

イ 秋肥の施肥（9月中旬頃）

- ・ 貯蔵養分を蓄積させたい（着果負担で疲れている、樹の疲労が大きい）場合、速効性の化成肥料（窒素成分で2 kg / 10 a）を使用します。

△ブドウの場合、生育に必要な養分の大部分は基肥です △

ウ 基肥の施肥（10月下旬から12月頃）

- ・ 緩効性の有機肥料等を使用し、量は窒素成分で2 kg / 10 aを基準とします。
- ・ 早生品種の場合は9月頃に窒素成分で4 kg / 10 aを施用します。

- 農業災害が多発しています。**農業保険（農業共済・収入保険）**に加入しましょう！
- 会津若松市内において熊の目撃が増え、人身事故も発生しています。一人で農作業をする際は熊鈴を携帯、手を叩いて人がいることをアピールしましょう。
- 9～10月は「秋の農作業安全運動」重点推進月間です。使用前に必ず点検・整備を行うようにし、1人での作業は行わないようにしましょう。

